

インフルエンザ・新型コロナウイルス定期予防接種についての説明書

インフルエンザについて

感染を受けてから1～3日間ほどの潜伏期間の後に、高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などが突然あらわれ、咳、鼻汁などが続きます。普通の風邪に比べて全身症状が強くあらわれます。

新型コロナウイルス感染症について

SARS-CoV-2 による感染症で、発症すると発熱・咽頭痛・咳などの症状が見られます。軽症のまま治癒する人も多い一方、重症化すると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

予防接種を受けることができない方

下記に該当すると思われる場合、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 明らかに発熱している人（※1）
 - 重い急性疾患にかかっている人
 - インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状に起こしたことがある人
 - 新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の対象者にあつて、接種液の成分によってアナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴のある人（※2）
 - 上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある人
- （※1）明らかな発熱とは、通常37.5℃以上を指します。検温は、接種を行う医療機関（施設）で行い、接種前の対象者の健康状態を把握することが必要です。
- （※2）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

予防接種を受けるに当たり注意が必要な人

下記に該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患のある人
- 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられる人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある人
- 過去にけいれんを起こしたことがある人
- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人
- インフルエンザの場合は、間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある人
- 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーが起こるおそれがある人
- 新型コロナウイルス感染症の場合は、抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある人

接種を受けた後の注意点

- 接種を受けた後、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師へ連絡してください。
- 接種部位を清潔に保ち、接種当日は、過激な運動や過度の飲酒は避けましょう。
- 接種当日の入浴は差し支えありません。

副反応について

- インフルエンザの主な副反応は、注射した部分の赤み、腫れ、痛み、発熱、悪寒、頭痛、全身のだるさなどが見られることがあります。通常2～3日のうちに治ります。その他、まれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん、運動障害、意識障害の症状があらわれることがあります。
- 新型コロナワクチンの主な副反応は、注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、発熱等があります。また、まれな頻度でショック、アナフィラキシー、心筋炎や心膜炎、運動障害が発生します。接種後に気になる症状があった場合は、接種医あるいはかかりつけ医に相談してください。

予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

申請に必要な手続きなどについては、秩父保健センターにご相談ください。